

認知症は怖くない！ 『当事者視点の認知症診療および予防』

～還元型コエンザイムQ10の可能性も含めて～

日時 2018年**5**月**26**日(土) 12:20～13:10

会場 第7会場(大阪国際会議場 10F 会議室1009)

座長 所沢ハートセンター 院長 桜田 真己 先生

演者 医療法人 札幌いそべ頭痛・もの忘れクリニック
院長 磯部 千明 先生

裏面に抄録を掲載

共催：第18回日本抗加齢医学会総会 / カネカユアヘルスケア株式会社



磯部 千明 先生

キリトリ線

カネカユアヘルスケア抽選券(下欄にご記入の上、カネカユアヘルスケアブースにお持ちください。1回抽選できます)

お名前	(ふりがな)
施設名	(○をおつけください) 医師・薬剤師・その他() 医師の場合は診療科をご記入ください()
ご住所	〒
電話番号	

【個人情報に関するお取り扱い】 ご提供頂いた個人情報は、販売に関わる使用目的において、カネカユアヘルスケアで利用させていただきます。ご本人の了解を頂いている場合や法令に従う場合を除き、いかなる第三者にも開示・提供いたしません。

認知症は怖くない！：『当事者視点の認知症診療および予防』

～還元型コエンザイム Q10 の可能性も含めて～

医療法人 札幌いそべ頭痛・もの忘れクリニック
磯部 千明

【背景】20 世紀に保健・医療およびケアが向上した結果、非感染性疾患が増加し、世界的に平均寿命が伸びた。近年、認知症性疾患では血管性認知症が減少し、神経変性疾患であるアルツハイマー病の割合が高くなったが、根治薬や疾患修飾薬が未解決であり、増加し続けている。アルツハイマー病は経過が長期であるため、個人の医療・介護だけでなく、介護者の生活負担、社会福祉などに関する財政の負担は莫大であり、社会生活に与える影響が大きい。

【認知症医療・介護の現状】社会的ニーズが高いものの、「診断しても治らないのだから受診してもムダ（早期診断の遅れ）」・「介護者が BPSD; behavioral and psychological symptoms of dementia（行動・心理症状）に巻き込まれ受診（事後的対応）」が多いのも実情である。

【「もの忘れ外来」の紹介】①Treatable dementia “治りうる認知症”を見逃さない、②認知症でない疾患（せん妄、うつなど）、③認知症予備軍（アルツハイマー病による MCI; mild cognitive impairment）診断、④認知症のリスク因子検索、⑤介護者心理ケア、⑥適時治療（疾患に対する偏見を減らす、むやみに投薬するのではなく、患者特性を考慮した処方）、⑦住み慣れた地域・馴染みの人間関係環境による生きがいのある生活を守る“当事者視点”の診療を心がける。

【予防法：非薬物療法】生活習慣改善がアルツハイマー病予防に有効である可能性が示されおり、40 歳代から「認知症ドック」を受け、発症促進因子を減らし、抑制因子を増やすことが大切となることを示唆している。【サプリメント（還元型コエンザイム Q10）】パーキンソン病やアルツハイマー病の病態（発症早期段階）に酸化ストレスが関与するとする報告がある。アルツハイマー病発症予防には、生活習慣改善の指導に加え、サプリメント（還元型コエンザイム Q10 など）を組み合わせることが、より効果的であるかもしれない。